



テナント

- [テナント \(1 ページ\)](#)
- [テナントの追加 \(2 ページ\)](#)

テナント

テナントは、アプリケーションポリシーの論理コンテナで、管理者はドメインベースのアクセスコントロールを実行できます。テナントはポリシーの観点から分離の単位を表しますが、プライベートネットワークは表しません。テナントは、サービスプロバイダーの環境ではお客様を、企業の場合は組織またはドメインを、または単にポリシーの便利なグループ化を表すことができます。

テナントを管理するには、パワー ユーザまたはサイトとテナント マネージャの読み取り/書き込みロールのいずれかが必要です。

次の 3 つのテナントが事前に設定されています。

- **common** : ACI ファブリックの他のテナントに「共通」のサービスを提供するための特別なテナント。共通テナントの基本原則はグローバルな再利用です。一般的なサービスには、共有 L3Out、DNS、DHCP、Active Directory、共有プライベートネットワークまたはブリッジドメインなどがあります。
- **dcnm-default-tn** : Cisco DCNM ファブリックの設定を提供する特別なテナント。
- **infra** : トンネルやポリシー展開など、ファブリック内部の通信に使用されるインフラストラクチャテナント。これには、スイッチ間の切り替えと APIC 通信への切り替えが含まれます。infra テナントは、ユーザー空間（テナント）には公開されず、独自のプライベートネットワーク空間とブリッジドメインを備えています。ファブリックの検出、イメージ管理、ファブリック機能用の DHCP は、すべてこのテナント内で処理されます。

Nexus Dashboard Orchestrator を使用して Cisco DCNM ファブリックを管理する場合は、事前に設定されているデフォルトの dcnm-default-tn を使用し、次のオブジェクトを作成および管理できます。

- VRF

- ネットワーク

テナントの追加

このセクションでは、Nexus Dashboard Orchestrator GUI を使用してテナントを追加する方法について説明します。

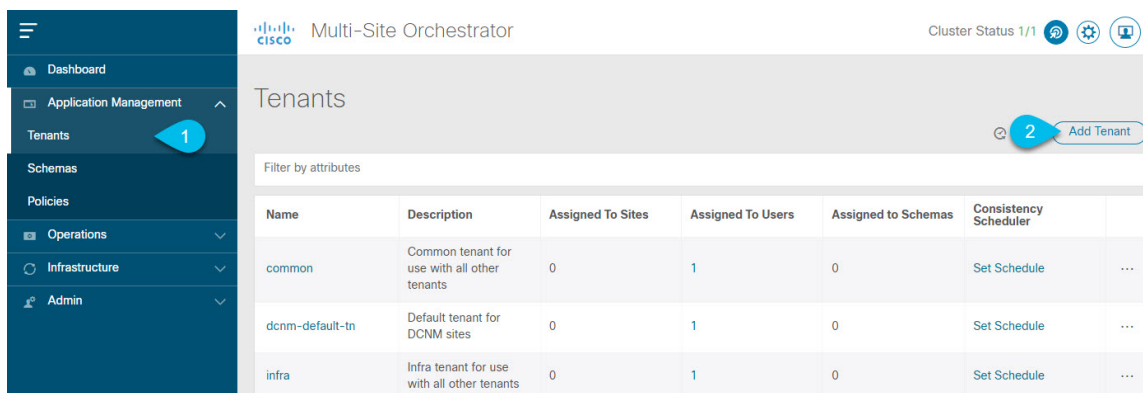
始める前に

テナントの作成および管理には、パワー ユーザまたはサイト マネージャの読み取り/書き込みロールを持つユーザが必要です。

手順

ステップ 1 Nexus Dashboard Orchestrator の GUI にログインします。

ステップ 2 テナントを追加します。



- 左型のナビゲーションメニューで、[アプリケーション管理 (Application Management)] > [テナント (Tenants)] を選択します。
- メインペインの右上にある [テナントの追加 (Add Tenant)] をクリックします。

[テナントの追加 (Add Tenant)] 画面が開きます。

ステップ 3 テナントの詳細を入力します。

- [表示名 (Display Name)] とオプションの [説明 (Description)] を入力します。

Orchestrator の GUI 全体で、テナントが表示されるたびに、テナントの表示名が使用されます。ただし、APICでのオブジェクトの命名要件により、無効な文字は削除され、その結果として得られた内部名が、サイトにテナントをプッシュするときに使用されます。テナントの作成時に使用される内部名は、[表示名 (Display Name)] テキストボックスの下に表示されます。

テナントの表示名はいつでも変更できますが、テナントの作成後に内部名を変更することはできません。

- b) **[関連付けられたサイト (Associated Sites)]** セクションで、このテナントに関連付けるすべてのサイトと、使用する **[セキュリティドメイン (Security Domain)]** をオンにします。
選択したサイトのみが、このテナントを使用している任意のテンプレートで使用可能になります。
セキュリティ ドメインは APIC GUI を使用して作成し、アクセスをコントロールするために、さまざまな APIC ポリシーに割り当てることができます。詳細については、*Cisco APIC 基本設定ガイド*を参照してください。
- c) **[関連付けられたユーザー (Associated Users)]** セクションで、テナントへのアクセスが許可されている Nexus Dashboard Orchestratorユーザーを選択します。
テンプレートを作成するときに選択したユーザーのみが、このテナントを使用できます。
- d) (オプション) 整合性チェッカ スケジューラを有効にします。
これにより、定期的な整合性チェックを有効にできます。整合性チェッカ機能の詳細については、*Cisco Multi-Site Troubleshooting Guide* を参照してください。

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックして、テナントの追加を終了します。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。